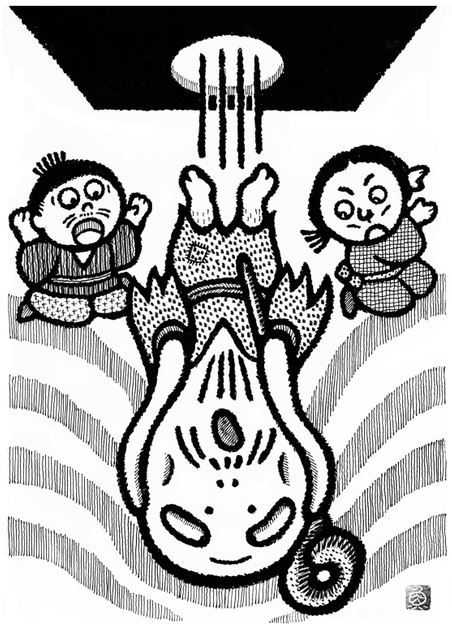
貧乏神と黄金

鉾田市

昔、大竹村(現在の鉾田市大竹)に貧乏ながらも働き者の百姓夫婦が住んでいました。

土地は小さかったものの、心をこめて手をかけ、懸命に耕し、朝早くから夜遅くまでそれは真面目な働きぶりでした。

ある寒い冬の晩、いつもの様に夜なべ仕事をしていると、突然、屋根を突き破って何かが落ちてきました。夫婦が驚いていると、それは、やせ細ったみすぼらしい身なりの老人でした。



その老人は「自分は貧乏神だ」と名乗り、「お前達は土地も少なく家も小さい貧乏暮らしだというのに、まじめにせっせと働くので住みにくくて仕方がないから出て行く」と貧乏ゆすりをしながら言うのです。

そして「今夜の四つ時(午後十時)頃に、向こうの山道に行ってみろ、馬が通るから」と言い残し出て行ってしまいました。

「なんだか変な話だが、神様の言うことだから」と、貧乏神の言う通り山道へ向かいました。しばらくして馬が目の前にやってきたかと思うと、突然ぼたぼたと大量の糞をし始めました。二人は驚きあきれましたが、馬糞を見て「これはいい肥やしになる」と拾って帰りました。翌朝見てみると、なんと馬糞は黄金に変わりきらきらと輝いていました。

きっと貧乏神が授けてくれたに違いないと大喜び。大金持ちになった夫婦は幸せに暮らしたということです。

来年は新元号となりますが、真面目で誠実に生きる人には幸運がやってくる、そんな世の中になると素敵ですね。



〈出典〉茨城の民話(日向野徳久編)

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) http://www.ibaraki-isuzu.co.jp

いきいき茨城ゆめ国体2019
を応援しております。

この一年間のご愛顧ありがとうございました。
来年もよろしくお願い申し上げます。良いお年をお迎えください。